

実務経験にある教員等による授業科目の一覧表

課程名	学科名	授業科目	授業 時間数	実務経験に ある教員による 授業科目	シラ バス	備考	
教育・社会福祉専門課程	こども未来本科 (4年制)	こども演習	60	○	○		
		保育技術	60	○	○		
		体験実習Ⅰ	40	○	○		
		保育実習Ⅰ	40	○	○		
		保育実習Ⅱ	120	○	○		
		施設実習	80	○	○		
		小学校学習支援	80	○	○		
		学童保育実習	40	○	○		
		野外活動実践演習	90	○	○		
		話し合い活動実践演習	30	○	○		
		教育フィールド研究	30	○	○		
		総時間数	670				

授業科目名(担当者 西原美津江)	単位数	学習形態
こども演習	2単位(60時間)	演習・実技

(授業のテーマ)

表現活動の基礎と応用を学び、保育現場で質の高い実践力を発揮する

(授業の概要)

多面的な表現活動を学び、企画、製作、発表を通して総合的な表現力を養う

(授業計画)

- 1・2 授業概要の説明や内容確認
- 3～12 オリジナルネームプレートの製作・発表(一人ずつ作品への思いを発表する)
- 13～24 絵本・紙芝居の教育的意義と成長に必要な価値を知り、教材の精選や基本的な実演方法を学び、学生一人ずつ発表を行い個別指導で実践力を高める
- 25～34 園行事や学級活動の中で活躍する「すきま遊び」の様々な技術を習得し、実践力を養う(個人やグループ発表を行い、個別指導をする)
- 35・40 郷土(沖縄)の童歌とリズムダンスを学び、楽しく表現する技を身につける
- 41～46 ペープサート製作と演出の基本を学び、オリジナルのペープサート製作と発表(製作・演出の個別指導を行う)
- 47～60 オリジナルの劇遊びの企画・演出・製作・発表
各グループで劇遊び(オペレッタ)について考案し研究を深め発表する
(ねらい・伝えたい思い・内容・台本・配役・役者の動き・セット配置・舞台美術等)

(参考書・参考資料)

こどもの文化研究所「紙芝居 演じ方のコツと基礎理論のテキスト」 一声社

紙芝居文化の会「紙芝居白科」 童心社

徳永満理「よくわかる絵本読み聞かせ」 チャイルド社

「ふだんの保育を発表会につなげる 0～5 歳児たのしい劇遊び」 池田書店

佐々木昇「0～5 歳児の非認知的能力」 チャイルド社

阿部恵「すきま時間あそび 107」 すずき出版

高江洲義寛「沖縄のわらべうた」 沖縄文化社

白井三根子「子どもの心を動かす指導法」 ナツメ社

その他 講師作成の資料

(学生に対する評価)

試験は実施せず、個人の仕上がった作品やグループでの発表の出来をみて評価をおこなう。

また出席状況や授業態度も考慮し評価する。

授業科目名(担当者 西原美津江)	単位数	学習形態
保育技術	2単位(60時間)	演習・実技

(授業のテーマ)

保育の現場で活かせる様々な表現技術を修得し、幼児一人一人の「資質・能力」の指導法を学ぶ

(授業の概要)

表現方法の基礎を学び、教材の精選や製作・実演を行い、総合的な表現力を培う

(授業計画)

- 1・2 授業概要の説明や内容確認
- 3・4 手遊び・年齢別の遊び方
- 5～8 絵本・紙芝居について知る・読み方や選び方について実践練習を行う
- 9～12 折り紙の基本・年齢別と季節の遊び方
- 13・14 新聞紙遊びの基本・年齢別と季節の遊び方
- 15・16 ハサミとのり指導の基本
- 17～20 画用紙製作(基本と応用)・年齢別の遊び方
- 21～28 描画指導の基本と応用・年齢別の遊び方
- 29～36 パネルシアター製作と実演の基本と応用 (一人ずつ発表と個別指導を行う)
- 37～42 エプロンシアター製作と実演の基本と応用 (一人ずつ発表と個別指導を行う)
- 43～44 ペーパーサート製作と実演の基本と応用 (一人ずつ発表と個別指導を行う)
- 45～48 手袋人形と手遊びの基本と応用、実演・年齢別の遊び方(一人ずつ発表を行う)
- 49～50 身体表現の基礎・年齢別の表現遊び
- 51～52 リトミック遊び・年齢別の遊び方
- 53～54 楽しい楽器遊びの指導・年齢別の遊び方
- 55～58 保育現場で実施する行事の意義・目的・ねらい・育ち・展開と継続の理解
- 59～60 季節や行事に即した環境構成(園内外・行事等の壁画・中心的な壁画)

(参考書・参考資料)

- 徳永満理「よくわかる絵本読み聞かせ」チャイルド社
- 古橋和夫「保育者のための言語表現の技術」 萌文書林
- 阿部直美「園行事 資料と展開」チャイルド社
- 白枝義雄 白枝知亜紀「モンテッソーリの紙遊び」 PHP研究所
- かわはらあみこ「手袋シアター」 ナツメ社
- その他講師作成の資料

(学生に対する評価)

試験は実施せず、個人の仕上がった作品や発表の出来をみて評価を行う。

また出席状況や授業態度も考慮し評価する。

授業科目名(担当者 西原美津江)	単位数	学習形態
体験実習 I	1単位(40時間)	実習

(授業のテーマ)

様々な保育や教育の現場を体験する

(授業の概要)

体験実習は選択制(認可外保育園 インターナショナル保育園 小学校)とし、希望する施設で体験実習を行なう

実習の形態は観察・体験を主体とし、1日8時間の5日間・計40時間とする

(授業計画)

各施設の役割を知る

実習に向けての心構えを理解する

実習の流れと目的や諸注意を理解する

実習感想簿の意義を知り、記録方法について学ぶ

実習先の施設と事前にオリエンテーションを行い、実習先の施設の概要を知る

保育や教育を観察したり、体験したりして、1日の流れや子ども達の生活や遊びの実態を知る

保育士や先生の配慮事項を知り、職務について理解を深める

実習終了後に感想や反省・気づきなど、実習の振り返りを行う

(参考書・参考資料)

実習ワーク

教育実習事前・事後指導(小学校)

講師配布資料

(学生に対する評価)

実習先施設の評価60%

実習感想簿20%

実習事後指導への取り組み方20%

授業科目名(担当者 西原美津江)	単位数	学習形態
保育実習 I	1単位(40時間)	実習

(授業のテーマ)

保育を実際に体験することで、保育士の職務を理解をする

(授業の概要)

保育実習 I は、基礎実習として保育所での保育を体験的に学ぶ
 実習の形態は観察・体験を主体とし、1日8時間の5日間・計40時間とする

(授業計画)

保育所の役割を知る

実習に向けての心構えを考える

保育実習の流れと目的や諸注意を理解する

実習感想簿の意義を知り、記録方法について学ぶ

実習先の保育所と事前にオリエンテーションを行ない、実習先の保育所の概要を知る

保育を観察したり、体験したりして、保育の流れや乳幼児の生活や遊びの実態を知る

保育士の配慮事項を知り、保育士という職務について理解を深める

実習終了後に感想や反省・気づきなど、実習の振り返りを行なう

(参考書・参考資料)

保育所保育指針

幼保連携型認定こども園教育要領

実習ワーク

(学生に対する評())

実習先の保育所の評価60%

実習感想簿20%

事後指導への取り組み方20%

授業科目名(担当者 西原美津江)	単位数	学習形態
保育実習Ⅱ	1単位(120時間)	実習

(授業のテーマ)

保育実習Ⅰで学んだことをふまえて、保育実習Ⅱでは幼児理解と保育士の専門職についてさらに深い学びと理解を目指す。

(授業の概要)

保育所に関する知識、実習の意義やあり方と幼児理解を学ぶ。実習後は自己評価をし、自己の課題を知り将来の保育士としての自覚を得る。

保育実習Ⅱは保育所において、基本的に1日8時間の15日間・計120時間とする。

(授業計画)

保育所の役割を理解する

乳幼児の最善の利益について学び、幼児理解に努め実践する

実習に向けての心構えを考える

保育実習の流れと諸注意を理解する

指導計画の作成について理解する

実習日誌の意義を知り、記録方法について学ぶ

実習先の保育所と事前にオリエンテーションを行ない、実習先の保育所の概要を知る

保育に参加し、保育の流れや乳幼児の生活や遊びの実態を知る

保育士の配慮事項を知り、保育士という専門職の理解を深める

実習終了後に感想や反省・気づきなど、実習の振り返りの授業を行う

(参考書・参考資料)

保育所保育指針

幼保連携型認定こども園教育・保育要領

実習ワーク

保育の計画と評価を学ぶ

(学生に対する評価)

実習先保育所からの評価60%

実習感想簿20%

事後指導への取り組み20%

授業科目名(担当者 西原美津江)	単位数	学習形態
施設実習	1単位(80時間)	実習

(授業のテーマ)

保育所以外の児童福祉施設を知り、児童福祉施設での保育士の役割への理解を深める

(授業の概要)

保育士が働くことができる施設について理解を深め、実際に施設での保育士の職務の役割を知る。また 福祉施設での子どもの様子を知る。

(授業計画)

児童福祉施設の役割を理解する

実習に向けての心構えを考える

施設実習の流れと諸注意を理解する

実習日誌の意義を知り、記録方法について学ぶ

実習先の施設と事前にオリエンテーションを行ない、実習先の施設の概要を知る

施設での流れや子ども達の生活や遊びの実態を知る

施設での保育士の配慮事項を知り、保育士という職務の理解を深める

実習終了後に感想や反省・気づきなど、実習の振り返りを行う

(参考書・参考資料)

実習ワーク

より深く理解できる施設実習

(学生に対する評価)

実習先施設の評価60%

実習日誌20%

実習事後指導への取り組み方20%

授業科目名(担当者 長田哲)	単位数	学習形態
小学校学習支援	2単位(80時間)	実習

授業のテーマ

小学校で授業に入り、学習支援をするとともに、小学校教員の児童に対する指導方法を見て学ぶ。小学校教員を目指す学生にとって貴重な経験になる実習である。

授業の概要

希望する小学校で学習支援を行う。実習の形態は観察・1日5時間の16日間・計80時間とする。

授業計画

小学校学習支援の役割を知る

実習に向けての心構えを理解する

実習の流れと目的や諸注意を理解する

実習先の小学校と事前にオリエンテーションを行い、実習先の小学校の概要を知る

小学校の授業に入り、学習支援をしたり、授業を観察したりして、指導方法や子ども達の実態を知る

小学校教員の職務について理解を深める

実習終了後に感想や反省・気づきなど、実習の振り返りを行う

参考書・参考資料

『教育実習事前・事後指導(小学校)』姫路大学教育学部通信教育課程

『教員をめざすための特別支援教育入門』大塚玲 編著 萌文書林

講師配布資料

学生に対する評価

実習先の評価30%

実習感想簿30%

実習事後指導への取り組み方40%

授業科目名(担当者 長田哲)	単位数	学習形態
学童保育実習	1単位(40時間)	実習

授業のテーマ

学童(児童クラブ)で児童と活動を共にすること、また学童職員の職務を間近で見て学ぶ。小学校教員を目指す学生にとって貴重な経験になる実習である。

授業の概要

希望する学童(児童クラブ)で保育実習を行う。実習の形態は観察・体験を主体とし、1日8時間の5日間・計40時間とする。

授業計画

学童(児童クラブ)の役割を知る

実習に向けての心構えを理解する

実習の流れと目的や諸注意を理解する

実習感想簿の意義を知り、記録方法について学ぶ

実習先の学童と事前にオリエンテーションを行い、実習先の学童の概要を知る

保育を観察したり、体験したりして、1日の流れや子ども達の生活や遊びの実態を知る

学童職員の配慮事項を知り、職務について理解を深める

保育実習を行う

実習終了後に感想や反省・気づきなど、実習の振り返りを行う

参考書・参考資料

教育実習事前・事後指導(小学校)

講師配布資料

学生に対する評価

実習先施設の評価60%

実習感想簿20%

実習事後指導への取り組み方20%

授業科目名(担当 長田哲)	単位数	学習形態(方法)
野外活動実践演習	3単位 (90 時間)	演習

授業のテーマ

現代の子どもたちには、自然体験、集団活動、直接体験が不足していることが危惧されている。文部科学省は青少年への自然体験活動の更なる充実を方針化している。そのため、これからの小学校教員には、子どもたちの自然体験活動を企画、運営、支援・指導する能力がより求められる。

授業の概要

自然体験活動やレクリエーション活動の基礎を学ぶとともに、演習を通して直接体験し、小学校教員・幼稚園教員・保育士となった際に子どもたちの体験活動を支援・指導できる素地を養う。また、たくましさ・自主自立・協力する心・自然を愛する心を養う。

授業計画

1. オリエンテーション(内容、評価等に関する説明)
- 2-6. スケジュール・プログラム作成
- 7-11. 青少年の家での打ち合わせ・実地踏査
- 12-16. しおり作成
- 17-21. 活動班編成
- 22-26. テント班編成
- 27-31. 青少年の家との調整・連絡
- 32-36. 持ち物表作成
- 37-41. 申込書類作成
- 42-46. 青少年の家での打ち合わせ
- 47-51. しおり作成
52. 参加学生(1年生)への説明会
- 53-54. 買い出し
- 55-59. しおり作成
- 60-64. 最終確認(模擬演習)
- 65-86. 青少年の家での実践演習
87. 振り返り
- 88-90. 新聞作成

テキスト

『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別活動編』

参考書・参考資料

前年度までのしおり、申込書等の書類や写真、ビデオなど

学生に対する評価・基準

授業態度、意欲、企画・運営、書類作成、準備、打ち合わせ、模擬演習、実践演習、新聞作成等を総合的に判断する。

授業科目名(担当者 長田哲)	単位数	学習形態
話し合い活動実践演習	1 単位(30時間)	演習・実技

(授業のテーマ)

学級活動における話し合い活動を、教育的な課題を議題にして実践的に経験・体験する。

(授業の概要)

小学校教諭としての学級経営の技能を養うとともに、教育観を深化させることができるようにする。

(授業計画)

- 1 授業概要の説明や内容確認
- 2～29 話し合い活動と振り返り・活動計画を交互に行う
- 30 話し合い活動のまとめレポート(話し合い活動を通して得た技能・深化した教育観)

(参考書・参考資料)

『小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 特別活動編』 文部科学省 2018 年 東洋館出版社

『みんなで、より良い学級・学校生活をつくる特別活動 小学校編』 文部科学省、国立教育政策研究所 2019 年 文溪堂

その他 講師作成の資料

(学生に対する評価)

授業態度、出席率、活動計画表、振り返りシート、期末レポート等にて総合的に判断する。

授業科目名(担当者 初鹿野修)	単位数	学習形態
教育フィールド研究	2単位(30時間)	講義・ゲストティーチャー

授業のテーマ

小学校教員の魅力を、小学校現場以外の活躍の場があることを知ることで、進化・深化させることができるようにする。

授業の概要

教職実践演習と連携づけて、様々な小学校教員の携わるフィールドを知ること及び実際の担当者からの講話を受けることで、小学校教員の奥深さを知り、夢を抱くことができるようにする。

授業計画

- 1～2・自己紹介・授業オリエンテーション・様々なフィールドのプレゼンテーション
- 3～4・学校内での教科指導以外のフィールド(特活・クラブ・部活……)・学校外のフィールド
(教委の指導主事・県の施設への出向)
- 5～6・学校内の業務・職務分担①(教務主任・教頭の職務)
- 7～8・学校内の職務分担②(校長の職務)
- 9～10・学校内の職務分担③(研究主任・学年主任等の職務)
- 11～12・教育委員会での業務①(指導主事という職務)
- 13～14・教育委員会での業務②(課長・部長・教育長の職務)
- 15 前期のまとめレポート①(こんな教師になりたい)
- 16～17・離地教育(離島・僻地での複式・複複式・渡りの授業)
- 18～19・低学年での学び合いの授業①
- 20～21・中学年での学び合いの授業②
- 22～23・高学年での学び合いの授業③
- 24～25・特別支援学級の授業
- 26～27・通級指導学級の授業
- 28～29・在外教育施設での教育(在外派遣としての職務・日本人学校・補習校での職務)
- 30 後期のまとめレポート②(続こんな教師になりたい)

参考書・参考資料

講師作成の資料

学生に対する評価

レポート及び授業態度と出席率

